

2019.4.16

総合計画審議会
総会資料

資料第3号

継続検討項目

(専門部会での主な意見)

総合政策局 都市政策課

時代認識と尼崎市の現状確認

総合計画の策定から約6年が経過するなかで、本市を取り巻く状況も変化しており、総合計画、特にまちづくり構想の点検を行うにあたり、計画策定時との状況比較に加え、**今日的な視点**を追加するなかで調査を実施する。



専門部会からいただいたご意見

A I 等や情報化の進展による
働き方の変化の視点

新たなイベント、交流拠点などを
見据えた観光的視点

大規模災害を想定した防災・減災の視点

近隣市の取組などを踏まえた広域連携の視点

時代の変化による社会の動かし方の変化の視点
（「集合」から「個」へ）



今後、上記意見を参考に、踏まえるべき視点や項目について調査・検討を進める。

総合計画への市民意見の取り入れ方

総合計画に基づくまちづくりには、市民意見を取り入れていくことが重要であるが、

「何を」「どのように」市民と共有していくか、ということが課題

専門部会からいただいたご意見

「総合計画」というテーマでは市民の関心を得にくい。市民に負担感なく自然な形で意見をきくことが大事。様々な説明会やワークショップが市で実施されているなか、そこで出た意見も活用できる。

市民懇話会等は人選が重要。公募という手法も重要だが、推薦という形で実際に活動している方に参加していただくことで議論の深化が期待できる。また、対象を尼崎市に関心を持つ方など、広く設定することで議論の幅も広がる。

「予算をどのように使うか」といった市民に身近なテーマを設定し、ワークショップ等により、当事者に近い方が何に使ってほしいかを把握することは有意義。またリアリティが増すため、若い世代の参画や活発な議論が期待できる。



今後、上記意見を参考に、ビジョンの共有に向けてテーマや手法等について具体化を図る。